

平成30年度公立大学法人福知山公立大学業務実績報告書に係る質問に関する回答

資料2

質問番号	業務実績書個別番号	質問事項	回答
1	1	(意見)「ナンバリング」では誤解を招くため、「科目ナンバリング」と表記したほうがよい。	指摘の通り「科目ナンバリング」に修正する。
2	2	(意見)「学外講師は」という主語から、～中略～「行われた」という結びでは日本語としておかしい。また、「9科目27回」の内政を記載した()内の表記の意味が理解できないため、全体の文章表現を整理する必要あり。	文章を以下のおおりに修正する。 『学生が講義内容の理解を深め、現場の声や最新事情を提供いただくことを目的として学外から講師を招聘した。学外講師の授業が1名の科目が4科目、2名の科目が1科目、13名の科目が1科目の合計25名の学外講師にお話しいただき、学生からは「さまざまな自治体・団体の話が比較できてよかった」、「現在取り組んでいる事例を知ることでよかった」などの声があり有益であった。』
3	3	(意見)「英語教員」の意味が、「英語を担当する教員(日本人?)」なのか、それとも「外国籍を有する教員」なのか不明。外国人であるのなら、「英語を担当するネイティブ(外国人)教員」などの記載が適当。	指摘の通り2人の英語教員(日本人)に修正する。
4	5	評価や指導方法に関する指針の統一のために共通テキストを作成したとあるが、共通テキストの作成が「評価や指導方法に関する指針」へどのようなつながるのか不明である。 実績が計画に対応していない可能性を感じるが、その点について教えていただきたい。 (なお、参考までに、2019年度も継続して取組んでおられるか教えていただきたい。)	指摘の通り、テキストの作成は評価や指導方法に関する指針の統一にはつながっていない。指導内容の統一のため「アカデミックスキルの」テキストを作成し、今年度もオンラインセッションに於いて学生に配付した。 (今年度、評価に関する指針統一のため、ルーブリックの作成を検討している。また、指導方法に関しては、1年生授業「地域経営演習」及び「アカデミックスキルの」担当者全員による会議を実施し、学生指導に関する情報を共有して議論し、同一科目で指導方法に偏りが出ないよう取り組んでいる。)
5		(質問)業務実績から見て、評価を「2」とする理由が見当たらないが、「2」とした詳細な理由は何か?。年度計画が「...実践教育を実施する」という若干抽象的な記載になっているので、判断が難しいため根拠の提示をしてほしい。	テキストの作成により、指導内容の統一を図ったが、評価や指導方法に関する指針の作成に至らなかったため評価を「2」とした。
6		テキストも作成し、専門教育は行ったが、実践教育は乏しかったという評価か? 実践教育は他の現場に出て学ぶ授業で実施されていると思うが、どうか。	実践教育については、1年次から「地域経営演習」の授業でフィールドに出て、現場で学ぶ地域協働の教育を展開している。しかし、初年次教育である授業科目「アカデミックスキル」ではテキストの作成を行ったが、専門教育についてのテキスト作成は行われていない。また、評価や指導方法に関する指針の統一にはつながっていないため評価を「2」とした。
7	6	教員はプロジェクトのプロセスの中では一切かわからないのか? 成果だけを評価するのではなく、プロセスを評価し、そのプロセスにすべてでなくても良いが、節目節目で教員に関わらせることが必要ではないか?	2018年度プロジェクトでは、地域協働教育コーディネーターが各プロジェクトメンバーに面談を行い、進捗状況を確認した。2019年度からは単位化が可能となり、単位化を希望するプロジェクトについては、学生がwebシステムを利用し、活動状況を逐次報告し、担当教員はこれを確認し、適宜指導を行う。

8	(意見)年度計画がいずれも「検討する」という表現にとどまっている。令和1年の計画では「実施する、作成する」というところまで踏み込む必要がある。※内部質保証推進の観点から。	今年度の年度計画において、授業参観を実施する。成績評価のガイドライン作成については、委員会で検討するも相対評価の部分的導入につながるとの意見があり、決定に至らなかった。2019年度は、各教員の成績評価の割合について教員間で共有する。また、授業の達成目標と評価基準を明確化する。
9	(意見)中期目標の「教育の質の向上」のなかでのFD活動という観点からすれば、(5)救命講習、(9)避難訓練、(12)ふるさと納税などが記載されていることはおかしい。全体的なFDとしては活発に実施されており高く評価されるべきと考ええるが、しいて言えばPDCAの「CA」の部分ができておらず、今後の課題として認識してほしい。	教育研究に(5)、(6)、(9)、(12)は該当しない。 また、2018年度はFDで取り上げた内容の評価、改善につながる「CA」の部分が必要とされている。今後は「CA」の部分もFD活動に取り入れていく。
10	大学運営の効率化・合理化という点では改善勧告や努力課題に対して取り組まれていることが分かるが、教育の質の保証という観点で自己点検・評価委員会の役割は何か。同委員会がどのように機能しているか。	本学は、2016(平成28)年11月28日に「内部質保証の方針」を定め、①内部質保証システムの適切性について責任を担う組織 ②自己点検・評価の実施、③中期計画及び年度計画に基づく計画的な改善活動の実施、④第三者による評価、⑤情報公開の推進を定め、大学の質の保証及び向上に取り組みこととしている。これら内部質保証システムの適切性について責任を担う組織は、自己点検・評価委員会と定めている。 教育の質の保証という観点からは、教務委員会、キャリアサポート委員会又は学生委員会等で生じた課題について、改善のための必要な指示を行う必要がある。平成30年度は、自己点検・評価委員会がそれら委員会にどのような関わるかルールを検討した(詳細No.41)。これらの議論を踏まえ、平成31年度に本学に適したPDCAサイクルの構築を目指す(業務実績報告書No.89)。
11	実績には、地域枠を含む入学者選抜方法について記載されていると理解してよいか。	実績には、2017年4月および2018年4月の入学者を対象とした、地域枠を含む入学者選抜方法の妥当性の検証について記載していると理解してよい。
12	FAXを送った高校や予備校は何校か。北近畿地域への高校訪問はどれくらいか。	高校や予備校へのFAX送信数は2回でのべ4,928校(うち予備校は76校)である。 2018年度中の北近畿地域(口丹地域を除く)への高校訪問回数40校のべ128回である。

13		<p>学生募集活動では、時間をかけてよく取り組んでおられると思うが、一般入試の募集結果を見ると、三丹地域の志願者数が3年連続で38人・27人、22人と減少しており、全志願者教も12.6%減っている。</p> <p>業務の妥当性や有効性という点で、H29年度の学生募集活動を通じてどのような課題を確認し、H30年度でどう対処されたか、また、H30年度の結果をどう分析し、次にどのような有効と考えられる手立てをお考えかを教えてください。</p>	
14		<p>教員対象の説明会はどこで開催されたのか？</p>	<p>2018年度は神戸、京都、本学、金沢、岡山、徳島、名古屋の7会場で実施した。</p>
15		<p>教員を対象とした受験媒体を新規実施したとあるが、これは何か？</p>	<p>ベネッセ社が発行する高校教員向け冊子「view21」への広告である。</p>
16		<p>教育の質の向上に関わる大学の将来構想の策定で、「知の拠点」整備構想において福知山市や京都工芸繊維大学等の大学と連携して推進された具体的な取り組みがあれば教えてください。</p>	<p>2019年は福知山市、綾部市、京都工芸繊維大学と共同して文部科学省の地域科学技術振興事業の「科学技術イノベーションによる地域社会課題解決」に応募した。</p>
17		<p>教務システムが導入されていないが「3」になっているのはなぜか。</p>	<p>年度計画では、教務情報システムの導入を計画したが、当初予定より半年遅れた。</p>

18		22	<p>教学情報システムでの学生用Webサイトの自由閲覧可能な掲示板機能の運用など電子化が不十分と思われる。電子化の具体的時期と進捗割合をお知らせいただきたい。</p> <p>(生活支援)</p>	<p>2019年度は、4月に履修登録、休講、補講等のお知らせ機能、7月に授業評価アンケートの入力、成績のWeb登録、秋以降にシラバスのWeb入力を導入する予定である。</p>
19		25	<p>年度計画では、(7)アルバイト情報の提供体制を充実させること、(4)学生係がアルバイトのトラブルの相談窓口であることを周知する、以上 2点を計画されているため、業務実績には(7)と(4)について報告する必要がある。(4)の実績について教えていただきたい。</p>	<p>アルバイトに関するトラブル及び相談は年間を通してなかった。</p>
20		25	<p>上記質問と重複するが、来春には新学部(情報学部)の開設も控え2019年秋の運用は間違いないのか。</p>	<p>秋から2年次学生において運用を開始する。現在、2019年4月に導入したシステムの機能を確認し、作成した初案をもとに委員会で議論をしている。前期中に学生への説明を行い、入力させる予定である。</p>
21		28	<p>福知山公立大学研究活性化助成金の規模、対象、件数等について教えて頂きたい。</p>	<p>2018(平成30)年度の福知山公立大学研究活性化助成金の実績は、地域経営学研究会の費用として189,420円、地域協働型教育研究会の費用として、1,269,473の合計1,458,893円であった。</p>
22		30	<p>学生プロジェクトにおける京都工芸繊維大学等の連携機関との関係はどうなっているのか？</p>	<p>京都工芸繊維大学等の連携機関と連携した学生プロジェクトは、2018(平成30)年度実績としてはなかった。</p>
23		33	<p>コーディネイターの採用は、公立大学が行ったのか、北近畿地域連携会議が行ったのか？</p> <p>研究会①とあるが、②、③はあるのか？</p>	<p>コーディネイターは大学(北近畿地域連携センター)のコーディネイターとして採用した。研究会①と研究会②、③の3研究会が存在する。研究会①は、「高齢者の運転免許返納による社会的影響を改善するための、地域社会の新たなシステム構築」と、その持続可能性にかかわる社会経済モデル」、研究会②は「若者の北近畿地域への定着に向けた新たなアプローチ」、③は、「北近畿を面的に周遊する観光の挑戦」であった。</p>

24		<p>(質問) 科研費の申請、採択に向けた取り組みについて、実績に記載された「採択経験のある学内教員が他の教員の申請書類を確認する機会を設け」という取り組み以外に、何らかの取り組みを行ったのであれば教えてください。採択率を上げるのであれば、外部講師を招へいた研修会や専門的支援職員の配置などが必要だと考える。</p>	<p>科研費担当事務職員の能力向上を目的とする外部研修会に参加し、科研費採択の可能性を高める申請書の書き方、添削方法等を学び、FDフォーラムで研修内容を共有した。科研費の獲得件数が多い大学へのヒアリングを実施し、教員に情報を共有した。過去に採択実績がある教員から申請書類の提供を受け、希望者に配布した。外部講師を招へいた研修会は、今後検討したい。専門的支援職員の配置は、人員確保及び予算措置が現状では困難な状態である。</p>																		
25	<p>採択率30%は、困難な目標なのか？ 努力次第では、容易に可能な数値なのか？ 今年度、30%に達するべく努力された点は？</p>	<p>科研費の研究種目のうち、「基礎研究(C)」(10人応募)及び「若手研究」(4人応募)の採択率は、例年約30%であるため、本教値を目標に掲げた。近年、応募件数が増加傾向にあり、科研費の獲得は今後ますます厳しくなることが予想される中、「地域経営学」という確立されていない分野で研究する教員にとっては容易な数値ではないが、達成困難な目標ではないと考える。平成30年8月に科研費獲得TFを立ち上げ、①専任教員全員への研究代表者としての応募義務化、②採択された応募書類の共有、③学内教員(科研費採択経験者)による応募書類のピアレビュー、など科研費獲得に向けて取り組んだ。これらの取り組みは将来的に採択率向上につながる取組みであったと考える。</p>	<p>科研費の研究種目のうち、「基礎研究(C)」(10人応募)及び「若手研究」(4人応募)の採択率は、例年約30%であるため、本教値を目標に掲げた。近年、応募件数が増加傾向にあり、科研費の獲得は今後ますます厳しくなることが予想される中、「地域経営学」という確立されていない分野で研究する教員にとっては容易な数値ではないが、達成困難な目標ではないと考える。平成30年8月に科研費獲得TFを立ち上げ、①専任教員全員への研究代表者としての応募義務化、②採択された応募書類の共有、③学内教員(科研費採択経験者)による応募書類のピアレビュー、など科研費獲得に向けて取り組んだ。これらの取り組みは将来的に採択率向上につながる取組みであったと考える。</p>																		
26	<p>計画では「重点的な配分も行う」となっている。実績の内、研究費の重点的配分を行われたのは、記載の中のどの部分か。</p>	<p>「研究費の重点的配分としては、「研究活性化助成金(学長裁量経費)」(2件1,460千円)、と、「地域研究プロジェクト」(7件、1,980千円)として配分した。「研究活性化助成金(学長裁量経費)」としては、昨年度発出した地域経営学研究会の研究経費として190千円、今年度発出した福知山公立大学地域協働型教育研究会の研究経費として1,270千円を支出した。「地域研究プロジェクト」としては、地域貢献を目的とする学内の共同研究に対して、研究費として(7件、1,980千円)を支出した。</p>	<p>研究費の重点的配分としては、「研究活性化助成金(学長裁量経費)」(2件1,460千円)、と、「地域研究プロジェクト」(7件、1,980千円)として配分した。「研究活性化助成金(学長裁量経費)」としては、昨年度発出した地域経営学研究会の研究経費として190千円、今年度発出した福知山公立大学地域協働型教育研究会の研究経費として1,270千円を支出した。「地域研究プロジェクト」としては、地域貢献を目的とする学内の共同研究に対して、研究費として(7件、1,980千円)を支出した。</p>																		
27	<p>中期計画にある学内研究費の適切な配分を行うために、年度計画では重点的な配分も行うとあるが、業務実績を読んでも重点配分したという記載がない。これは単なる記述漏れという理解でよいか。</p>	<p>2018(平成30)年度の各講座の実施回数及び延べ参加者数は以下のとおりであった。</p>	<p>2018(平成30)年度の各講座の実施回数及び延べ参加者数は以下のとおりであった。</p> <table border="1" data-bbox="359 1388 510 1657"> <tr> <td>時事問題講座</td> <td>8回</td> <td>182人</td> </tr> <tr> <td>歴史講座</td> <td>8回</td> <td>268人</td> </tr> <tr> <td>健康講座</td> <td>8回</td> <td>159人</td> </tr> <tr> <td>自然科学講座</td> <td>8回</td> <td>102人</td> </tr> <tr> <td>美術鑑賞講座</td> <td>8回</td> <td>98人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>40回</td> <td>809人</td> </tr> </table>	時事問題講座	8回	182人	歴史講座	8回	268人	健康講座	8回	159人	自然科学講座	8回	102人	美術鑑賞講座	8回	98人	合計	40回	809人
時事問題講座	8回	182人																			
歴史講座	8回	268人																			
健康講座	8回	159人																			
自然科学講座	8回	102人																			
美術鑑賞講座	8回	98人																			
合計	40回	809人																			
28	<p>2018年度の各講座の参加者数は？</p>	<p>2018(平成30)年度年度計画に数値目標を記載しなかったため、この評価は妥当と考える。</p>	<p>2018(平成30)年度年度計画に数値目標を記載しなかったため、この評価は妥当と考える。</p>																		
29	<p>2019(平成31)年度の年度計画では目標数値を掲載している。</p>	<p>2019(平成31)年度の年度計画では目標数値を掲載している。</p>	<p>2019(平成31)年度の年度計画では目標数値を掲載している。</p>																		

30	42	<p>ここはハード施設の整備と利用を書く欄か？北近畿連携センターが、いかに地域貢献に寄与したかを書くべきではないか？メデアイアセンター、まちかどキャンパスは北近畿地域連携センターが運営するものなのか？年度計画の設定の仕方がおかしいのではないか？</p>	<p>中期計画には、地域連携・地域協働の拠点となる「北近畿地域連携センター」を設置するとなっており、北近畿地域連携センターは平成28年度に設置した。平成30年度(2018年)は業務実績報告書No.42の前半で地域連携・地域協働の拠点のため、北近畿地域連携センターが、各センターと協力して活動することを記述した。メデアイアセンター、市民学習キャリアセンター、まちかどキャンパス、北近畿地域連携センターはそれぞれが別組織ではあるが、定期的に会議(地域連携連絡会議、年5回)を開催し、各センター事業の情報交換及び協力体制制について検討した。平成30年度(2018年)は、メデアイアセンターが実施した研修会(RESAS講習)の受けを北近畿地域連携センター業務実績報告書No.42の後半部分では、施設利用の実績を記述した。</p>
31	44	<p>(質問)年度計画に「京都工芸繊維大学、福知山市と協議して、、、」と記載されており、実績では「、、、実施していない」となっているが、その理由は何か？</p>	<p>京都工芸繊維大学福知山キャンパスの教育プログラムが3年生後期のみであり、スタッフ・学生が福知山にいたる期間が想定していた以上に限られていたことで、本学との具体的な連携事業に取り組む環境が整えられていなかった。3者間(福知山市、京都工芸繊維大学、福知山公立大学)協議は実施しなかった。2018年度の実績ではないが、2019年6月7日には、京都工芸繊維大学、綾部市と共同で文部科学省の「科学技術イノベーションによる社会課題解決」事業の申請をした。</p>
32	45	<p>「京都工芸繊維大学をはじめ包括協定団体及び北近畿地域連携協議会協議形成メンバーとの連携を強化する」について、どの部分か？</p>	<p>「京都工芸繊維大学をはじめ包括協定団体及び北近畿地域連携協議会協議形成メンバーとの連携を強化する」については、定期協議会の開催と北近畿地域連携協議会の活動の展開、3つの研究会の3回ずつの開催、総会などが該当する。 具体的事業としては、グローカル特講(北近畿の地域創生)の講義において、包括協定団体との協力講義を実施し、京都府北部5市2町、兵庫県北部5市、2つ信用金庫、JR西日本、海の京都DMO、京都工芸繊維大学に登壇した。この講義は公開講座であり、センターが広報面や市民からの窓口役を果した。また、福知山市(設置者)、丹波市、朝来市(両市とも包括連携団体)については三市連携事業を展開しているが、その発展事業として、総務省の「関係人口創出・拡大事業」のモデル事業を申請した。 また、2019年6月7日には、京都工芸繊維大学、綾部市と共同で文部科学省の「科学技術イノベーションによる社会課題解決」事業の申請をした。 更に、12月に3市(福知山市、朝来市、丹波市)企業との本学学生とのマッチング会を実施した。2月には包括連携協定締結市町に本学学生のインターンシップ受入を依頼した。</p>

33	49	<p>(質問)年度計画で講演会は「5回程度」実施と記載されているが、実績での回数記載がない。何回実施されたのか？</p>	<p>2018(平成30)年度は北近畿地域連携ジョブプログラムを6回(5市、福知山市2回)実施した。</p>
34	56	<p>(意見)「実施可能なルーブリック」という表現が唐突であり、大学実務関係者しか理解ができないと思う。巻末の用語集でも記載されておらず、読者が理解を深めるための対応が必要。</p>	<p>ルーブリックとは、授業やカリキュラムで求められる到達目標を、どの程度達成できているかを計るための評価ツールである。評価の観点(ポイント)や評価の基準3～5段階に分け、文書により提示することで、○×だけでは測れないレポートやプレゼンテーション、実習等の複雑な課題を評価することができる。</p> <p>ルーブリックの事例としては、別添のとおりである。</p>
35	61	<p>今後の大学の発展を考えると、大学経営の改善や大学運営の効率化に影響の大きい課題を認識し、順に手立てを打ち、改善を継続することが重要である。</p> <p>様々な機会に出た意見は記載があるので分かるが、それらを大学経営や大学運営にどう反映させたのか、具体的な対応と改善成果(効果)について教えていただきたい。</p>	<p>業務実績報告書No.56で例示した外部委員の意見について、本学では以下のように取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福知山市と連携して学生の住宅確保を含めたキャンパスライフの整備を進めること。 ・学生の住宅確保を含めたキャンパスライフの整備は学生委員会が対応している。No.21を参照。 ・キャンパスライフの整備は事務局が担当する。業務実績報告書No.71を参照。 ・インターンシップのプログラムについて、マニユアルを作成し企業に提示するなど充実をはかること。 ・キャリアサポート委員会が対応している。業務実績報告書No.51を参照。 ・本学に合った実施可能なルーブリックの作成を検討していくこと。 ・教務委員会が対応している。業務実績報告書No.55を参照。 ・北近畿地域連携会議の会費の徴収については慎重にすすめること。 ・北近畿地域連携センターが対応している。業務実績報告書No.33を参照。 ・三たん地域からの志願者確保に努めてほしい。 ・入試委員会が対応している。業務実績報告書No.14を参照。 <p>以上とおろ業務実績報告書No.56で例示した意見は、学内の担当委員会で対応している。しかし、様々な機会に出た意見を集約し大学経営や大学運営にどう反映させるかについて、仕組みの確立と実施に向けて取り組む。</p>
36	61	<p>市民ニーズの把握につながる様々な取り組みをされているが、当初の計画にあったHP等で結果を公開しなかったのはなぜか。</p>	<p>講演会などで全てアンケートをとっており、その結果を掲載した報告書をHPで公開している。アンケートの質問項目やアンケート結果に対応する改善等については、今後委員会等で検討していく。</p>
37	71	<p>施設・設備の整備計画作成についての記載がないが、「3」になっているのはなぜか。</p>	<p>施設・設備の整備計画の作成に至らなかつたが、以下のとおり検討をしており「3」の評価とした。</p> <p>4号館空調設備、エレベーター更新するための準備を進めた。</p> <p>インフラ長寿化計画(行動計画、個別施設計画)に対応するため、15年程度の長期修繕計画を作成する準備を進めた。</p>

38	72	(質問)平成31年度より新学部設置準備室付で2人の教員を迎えた。1と記載があるが、準備室付教員の具体的な職務内容は何か？既設の地域経営学部での授業担当はないのか？	準備室付教員は、情報学部の申請書類の作成と2020年度学生募集のための広報活動、入試の実施と2020年度の授業が円滑に開始されるように準備を中心と成り行方。また、本年度は地域経営学部の科目を1科目、2科目担当している。
39	78	(質問)貸与施設利用料金を改定(値上げ)したことによる収入はどのようになつたのか？具体的な増額がわかれば知りたい。	一般利用の貸与施設利用料金については、平成29年度は343千円(35件)、平成30年度は504千円(39件)となっており、161千円の増額となっている。
40	85	契約手順のマニュアルを作成し、発注方法を整理したことが、経費の抑制につながつたと理解してよいか。	発注方法を整理し、統一した契約手順を周知したことは、直接的に経費の抑制に繋がるものではない。しかし、競争入札を基本とした公正な価格競争を実施することができ、事務(契約等)の効率化には大いに寄与するものであった。
41	86	年度計画には、30年度の計画についての対応が記載されていると考えますが、業務の実績には、31年度の年度計画に向けてのことが記載されており、どう関連しているのか教えて頂きたい。	自己点検・評価委員会(第5回(1月8日)、第6回(1月31日)、第7回(2月28日))で2018(平成30)年度の進捗状況を検討し、2019(平成31)年度年度計画について確認した。2018(平成30)年度の年度計画の進捗状況の検討した事項としては、以下のものがあつた。 ①「知の拠点」整備構想の実現に向け進捗状況 ②台風や豪雨などの大規模災害に対応するための学生の安全確保対策 ③年度計画の執行見込(進捗状況)に数値が記入されているか ④年度計画の執行見込(進捗状況)の記述が具体的であるか ⑤外部資金の獲得に向けた取組状況 ⑥人事評価制度の進捗状況
42		年度計画に挙げた業務を大学としてやりきるには、定期的な進捗状況の点検を行つて助言・指示・指導することが必要であるが、担当部署は何処になるか。 業務実績をみると年度計画の進捗状況の点検や助言指導等を行つたと記載がないが、点検は行なつたかという理解でよいのか。仮にその場合は、なぜ点検を行なつたのか。	上記事項を検討した結果、同委員会からの意見は、以下のようなものがあつた。 ①「知の拠点」整備構想での京都工芸繊維大学との連携内容を平成30年度執行見込に記述する。 ②「知の拠点」整備構想での京都工芸繊維大学との連携内容を平成30年度執行見込に記述する。 ③安否確認システムの導入を平成30年度執行見込に記述する。 ④学生面接にゼミ担当教育が加わることや教員目標を平成30年度執行見込に記述する。 ⑤平成30年度執行見込に戦略的な就職支援の方法を記述する。 ⑥外部資金の獲得に向けた取組状況を平成30年度執行見込に記述する。 ⑦平成30年度の人事評価制度の取組状況や定員確保状況を平成30年度執行見込に記述する。 これら意見は、主要な委員会に伝達できるようにしているが、全ての委員会に伝わるしくみとなっていない。また、自己点検・評価委員会が各委員会に対して、どのように関係するか定まったルールも確立していないので、2018(平成30)年度はそのことを併せて検討した。その中で委員長会議を活用するとの意見もあつた。次年度で自己点検・評価委員会から各委員会に定期的に意見書を出す、助言・是正指導を行う等本学に適したPDCAサイクルの構築を目指す(業務実績報告書№89)。
43		(質問)業務実績から見て、評価を「2」とする理由が見当たらないが、「2」とした詳細な理由は何か？	

44		大学の教育研究水準向上に関して、自己点検・評価委員会の果たす役割は大きい。同委員会による委員会・部局を対象とした定期的な点検や助言・指示等の記載が無いように思うが、点検は行わなかったという理解でよいのか。仮にその場合は、なぜ点検を行わなかったのか。	
45	89	86番と88番の業務実績を通して、自己点検・評価委員会の取り組みに課題があると感じた。 そこで89番の業務実績をみると「大学全体の自己点検評価を行う為に委員長会議を活用する」とある。大学におけるすべての業務が改善・向上するよう推進の役割を担うのが、組織図にある自己点検・評価委員会だと思いが、委員長会議が何か分からないので教えていただきたい。	委員会議は、学部長と学内委員会の委員長の間で教授会の議案の事前調整を目的として、2018(平成30)年4月から開催(月1回)している。全ての委員長が出席することから、定期的な点検や助言・指示等についてこの委員会を活用する意見があった(第9回自己点検・評価委員会議事録)。
46	88	認証評価結果をHPで公表されたかどうか、記載がされていないが、実際のところはどうか。	HPに公表されているため、本市から委員に回答します。
47	99	実績に記載されている規程やガイドラインが、法改正に対応して作成されたものであると理解してよいのか。	地方独立行政法人法の2018(平成30)年度法改正の目的として、内部統制の整備、業務運営を改善する仕組みの構築がある。本学は、平成30年度に公立大学法人福知山公立大学業務方法書第12条で、①リスクに係る事務を統括する部署の設置、②リスクを低減するための検討、③リスクに対する評価の定期的かつ継続的な見直しをすることとした。このための基本的規程として、福知山公立大学リスクマネジメント規程を作成し、2019(平成31)年3月15日開催の理事会承認を得た。2019(平成31)年度は、各種のリスクに具体的に対応するため、リスクマネジメントガイドライン、リスクマネジメントマニュアルを作成する。
48	100	中期計画では、「目標と計画を策定し、実施する」となっており、そのための年度計画で、「把握・管理」が掲げられている。業務の実績に記載された施設事項が、「施設設備の整備・管理に関する目標と計画を策定し、実施する」にどう関わっているのか。	当年度の年度計画では、資産を適切に把握・管理することを挙げているので、実績にはそのことを記入した。中期目標にある施設設備の整備については、No.71、No.108に記載している。
49	103	通信速度を上げた工事が、学内ネットワーク環境のセキュリティ強化に繋がったと理解してよいのか。	学外からアクセスできるファイルを公開ファイルのみにし、学内ネットワーク環境のセキュリティ強化を図った。
50	104	業務の実績は、計画が実施できていないように読み取れるが、「3」となっているのは何故か。	節電や空調の温度設定の省エネ対策について、メールや掲示で周知した。 空調温度は、冷房28℃、暖房20℃を基本設定としている。 プロジェクトの活用は、教授会、事務局ミーティング、各種委員会で実施し、ペーパーレス化を実施した。

51	105	<p>(質問)実施状況に記載された空調、エレベーター更新などは必要不可欠なものだと考えるが、予算確保に向けて福知山市との調整は進んでいるのか？実現の見通しは？</p>	<p>空調、エレベーター更新経費を2020(令和2)年度の予算に盛り込む。</p>
----	-----	---	---

※1 「No.」は、質問番号を指す。
 ※2 「業務実績報告書No.」は、平成30年度業務実績報告書個別番号を指す。

ルーブリックとは、米国内で開発された学修評価の基準の作成方法であり、評価水準である「尺度」と、尺度を満たした場合の「特徴の記述」で構成される。記述により達成水準等が明確化されることにより、他の手段では困難なパフォーマンス等の定性的な評価に向くとされ、評価者・被評価者の認識の共有、複数の評価者による評価の標準化等のメリットがある。コースや授業科目、課題(レポート)などの単位で設定することができる。国内においても、個別の授業科目における成績評価等で活用されているが、それに留まらず組織や機関のパフォーマンスを評価する手段とすることもでき、米国AAC&U (Association of American Colleges & Universities) では複数機関間で共通に活用することが可能な指標の開発が進められている。

1. ルーブリックの定義

ルーブリックとは、ある課題についての達成レベルを観点と尺度からなるマトリクス表で評価したものを指し、学習の達成度を表を用いて測定する評価方法のことです。

ルーブリックの特徴は、ディスカッションやグループワークなどで学習する「技能」「表現力」「思考力」「判断力」といった実演でのパフォーマンスや、ペーパーテストでは評価が困難な「興味・関心」「意欲」「態度」といった課題への取り組み姿勢を明確に評価できるという点にあります。

2. ルーブリックの種類

- 1 カリキュラムルーブリック
カリキュラム全体に対して作成したルーブリック
- 2 科目ルーブリック
授業科目の目標をルーブリックで示したもの
- 3 課題ルーブリック
授業で使用するレポートやプレゼンテーション等に使用するルーブリック

3. ルーブリックの使用方法

ルーブリックは、評価対象である観点の達成度レベルを3～5段階にわけ、各段階の評価の基準を文章化した表の形で示されます。下の例では、4つの評価の観点それぞれにレベル1～4までの評価の基準が示され、該当する箇所にチェック(○や ✓など)を入れ、4を超えるものには4+の欄にコメントを記入できるようになっています。

4. ルーブリックの活用方法

- 1 レポート課題を出す際に、学生にルーブリックを配付する。学生は、評価の観点や基準を参照することで、必ず執筆すべき点や完成の度合いを確認したうえでレポートを執筆できる。
- 2 プレゼンテーションをする前に、学生にルーブリックを配付する。学生は、プレゼンテーションで発表すべき点や配慮すべき点を確認できる。また聞き手は、ルーブリックをもとに発表学生のプレゼンテーションを評価できる。
- 3 評価者(教員)は、提出されたレポートに対して該当する部分を丸で囲む。学生が自分で採点したルーブリックをレポートと共に提出することで、教員は学生の自己評価を確認できる。

5. ルーブリックを使うメリット

- 1 「教員が学生にできるようにしてもらいたいこと」を知ることができる
- 2 複数の評価者が評価しても同じ結果が得られる(=公平な評価を得られる)
- 3 自分自身で改善すべき点を知ることができる
- 4 第三者(教員や受講生)から分かりやすいフィードバックを受けることができる

ルーブリック 事例1(レポート)

評価の観点	評価の観点の説明	4+	4	3	2	1
A 意見の提示	自分の意見を根拠とともに明確に提示しているか。		自分の意見を根拠とともに過不足のない形で十分、かつ明確に提示している。	自分の意見を根拠とともに明確に提示している。	自分の意見と根拠との関連が認められるが、一部明確でない形で提示している。	自分の意見を根拠がない形で提示している。
B 資料の扱い	資料の内容を的確に把握した記述をしており、それを根拠として成立させているか。		資料の内容を的確に把握した記述をしており、それを根拠として過不足なく十分に成立させている。	資料の内容を的確に把握した記述をしており、それを根拠として成立させている。	資料の内容を把握した記述をしており、それを根拠として一部成立させている。	資料の内容を把握していない形で扱っている。
C 文章全体の構成	序論・本論・結論に沿った構成で、各論の内容を明確に整理しているか。		序論・本論・結論に沿った構成で、各論の内容を過不足なく十分、かつ明確に整理している。	序論・本論・結論に沿った構成で、各論の内容を明確に整理している。	序論・本論・結論に沿った構成で、各論の内容を一部整理している。	序論・本論・結論に沿わない構成で、文章を記述している。
D 議論の展開	複数の立場から、根拠に基づく形で自身の意見を論理的に展開しているか。		複数の立場から、根拠に基づく形で自身の意見をわかりやすく論理的かつ明確に展開している。	複数の立場から、根拠に基づく形で自身の意見を論理的に展開している。	複数の立場から、一部根拠に沿う形で自身の意見を展開している。	一部の偏った立場から、自身の意見を展開している。

ルーブリック 事例2(プレゼンテーション)

評価の観点	評価の観点の説明	4+	4	3	2	1
A 主張・論点の提示	主張や論点を明確にテーマに沿う形で提示しており、伝えたい内容の要点をまとめているか。		主張や論点を明確にテーマに沿う形で十分に提示しており、伝えたい内容の要点を過不足なくまとめている。	主張や論点を明確にテーマに沿う形で提示しており、伝えたい内容の要点をまとめている。	主張や論点とテーマとの関連が認められるが、明確でない形で提示している。	テーマに沿わない形で主張や論点を提示している。
B 視覚情報・資料の扱い	視覚的な情報(図表、イラスト等)や資料(配布物等)を効果的に使用しており、伝えたい内容をわかりやすく提示しているか。		視覚的な情報や資料を効果的に扱っており、伝えたい内容を明確にわかりやすく提示している。	視覚的な情報や資料を効果的に扱っており、伝えたい内容をわかりやすく提示している。	視覚的な情報や資料を一部必要に応じて扱っている。	視覚的な情報や資料を効果的でない形で扱っている。
C プレゼンテーション全体の構成	プレゼンテーション全体を通して、筋道の立った順序で話しているか。		プレゼンテーション全体を通して、筋道の立った順序で明確に話している。	プレゼンテーション全体を通して、筋道の立った順序で話している。	プレゼンテーション全体を通して、一部筋道の立った順序で話している。	筋道の立っていない順序で話している。
D 発表の態度	話者の発表態度がプレゼンテーションの内容を説得的にしており、自信をもって伝えているか。		話者の発表態度がプレゼンテーションの内容を説得的にしており、聴衆の反応を見ながら自信をもって伝えている。	話者の発表態度がプレゼンテーションの内容を説得的にしており、自信をもって伝えている。	話者の発表態度がプレゼンテーションの内容をある程度説得的にしている。	プレゼンテーションの内容が伝わりづらい発表態度で話している。